

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

特 280
42



檀原神宮

御額面

謹寫頒布元 大日本忠愛義會

不許複製

檀原神宮

内務省届濟

皇祖神・武天皇

皇后 媛踏躰平鈴媛命

御祭神

社格 官幣大社

鎮座地 奈良縣大和郡高市郡白檀村大字武傍

御畧傳

神武天皇は御名を神日本磐余彥尊と申し、御父は丹波武庫野尊不命、御母は玉依姫と申す。御生れつき、聰明英武、格造大度にす。早し、風に皇太子に立せ給ふ。初の日向の高千穂宮に在し。か、諸皇兄、皇子、群臣等と謀り、天照皇大神の御神勅を奉り、皇孫の中興を定の、天下を統一、蒼生を安んじ、御業を成し、御業に入り、更に攝津河内紀伊を經て大和に入り給ふ。其間風餐雨宿、營の御業に於ては、諸皇兄を止む。或は鷹鷹に苦められ、弓矢の下に辛酷を嘗み、さすこと六星宿、遂に不逞を懲らし、反賊を平け、雄圖漸く遂げ、天業全く成りて、檀原の宮に高千穂を開かせ給ふ。始、天下之天皇と申す。實に辛酉の年春正月庚辰朔日(太陽曆換算二月十一日)に當り、此日を紀元節と爲す。正妃媛踏躰平鈴媛命を立て、皇后と爲し、三種の神器を正殿に奉安し給ふ。抑之れが吾が日本帝國の紀元元年であります。

即位二年には、群臣百僚の功を定め賞を行ひ、國造諸王を置きて、施政の制度を定められ、四年には靈時を馬見山に立て、大考を中へ給ふ。斯くて精勵治を勵り、或は諸國を巡幸して民情を視察し、或は重臣を遣はして土産を勸奨し、國內大に治まり給ふ。御位に在すこと七十六年、丙子三月十日(太陽曆換算四月三日)に當り、此日を神武天皇祭と爲す。御齡百三十七歳にて崩御し給ふ。其翌年、前傳山東北の陵に葬し奉る。

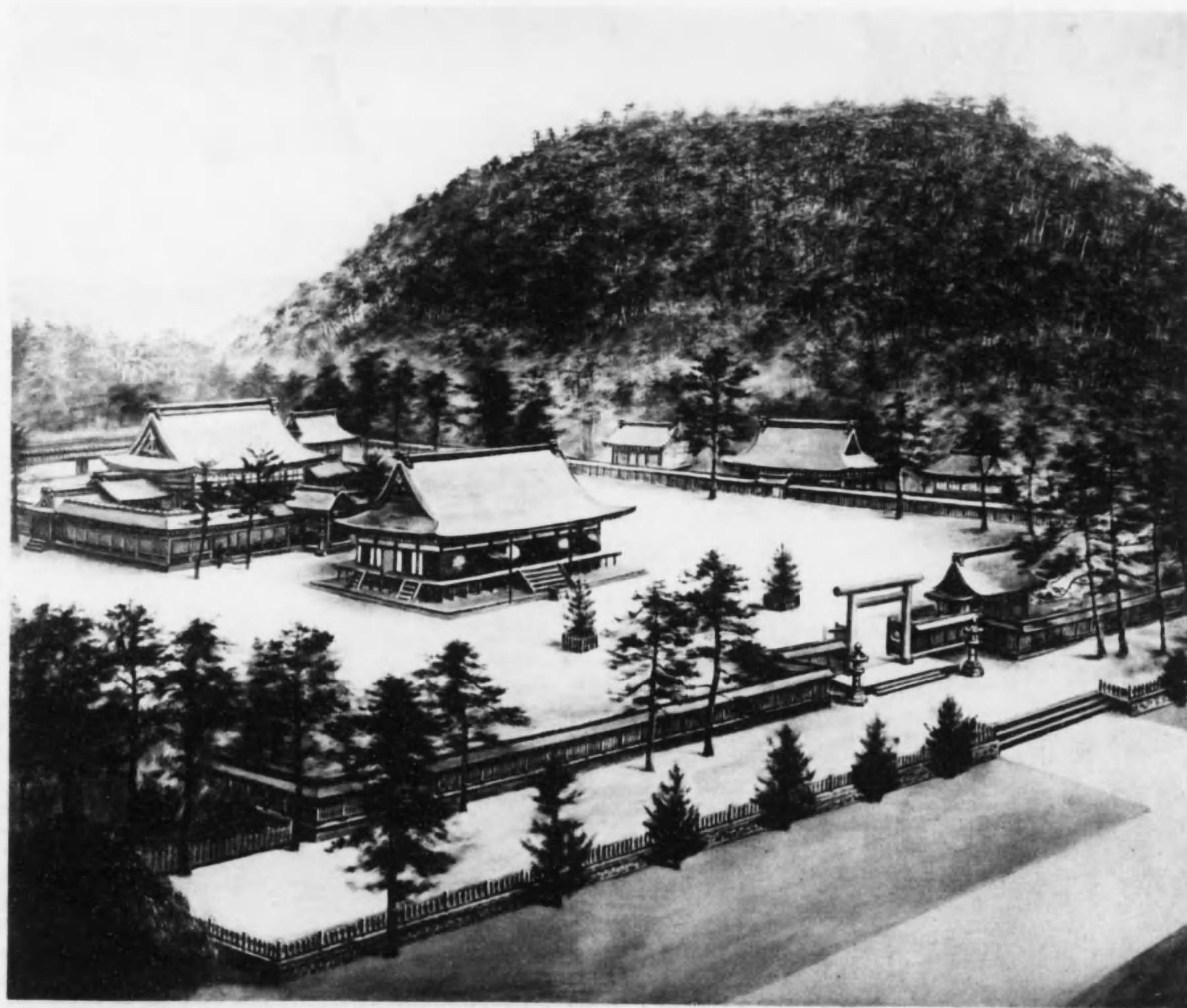
神宮御創建 明治二十二年御造營、同二十三年三月二十日宮跡を檀原神宮と御治定あり、官幣大社に列せらる。

御建勅 東面して建てり、御本殿神數三十八柱、各々、京都御所(温明殿とも云ふ)の御移築なり。拜殿神數八十柱、同じく、神喜殿の御移築なり。共に特別保護建築物とす。其外祝詞舎、四坪八合八勺、南北渡廊、各々十八坪七合七勺、南北廻廊、各々三坪九合、神樂所、二十四坪九合、寶庫、九坪、茶室、庫、十二坪五合、勅使館、百坪九合、齋館、三十一坪五合六勺、官廳、百四十三坪六合七勺等であります。

神域面積 境内三万六千六百三十八坪一合二勺、神苑(前傳山、向く宮殿の右に聳ゆる巒若なる山は前傳山である、天皇の御陵は此山の東北にあり、即ち前傳山東北麓(白檀村大字山本)もある。

御傍山 向く宮殿の右に聳ゆる巒若なる山は前傳山である、天皇の御陵は此山の東北にあり、即ち前傳山東北麓(白檀村大字山本)もある。

不許複製



大日本忠愛義會本部

大正十五年四月一日出版（寫真製版）
大正十五年四月三日發行（著作權所有）
非賣品（複製ヲ許サズ）
發行所 大日本忠愛義會理事長
著作者 高安龜次郎
東京市麹町區飯田町六丁目十二番地
發行所 大日本忠愛義會

終

